

入山辺地区	令和4年度	推進交付金：500,000円
取組み1「住んでみたい、訪れてみたい」 こんな山辺にするじゃん会の活動 入山辺地区の将来ビジョンを考える会 主催		推進交付金の活用
		有
<p>(1) 目的</p> <p>入山辺地区の将来ビジョンを考える会(愛称:こんな山辺にするじゃん会)は、平成23年11月に発足した、地区関係団体役員と有志で組織する団体です。</p> <p>市内でも高齢化が進む入山辺地区で、住民自らが地域課題に向き合い、その解決に向けて具体的に行動していくことを目的に、毎月の学習会と意見交換を重ねながら活動をしています。</p> <p>会は、「住んでみたい、訪れてみたい入山辺」を基本理念として、20年、30年後の将来を見据え、住民相互の絆を強める地域づくりを展開しており、入山辺地区の地域づくり推進交付金は、活動の費用として活用しています。</p> <p>(2) 取組み</p> <p>ア 学習会の開催(毎月第2火曜日)</p> <p>松本大学から白戸 洋 教授、向井 健 准教授を招き、月1回定例開催しています。毎回約30名が参加して、4つのグループごとにテーマや目的に沿って討議し、具体的な事例をもとに地域課題の解決に向けた学習を積み重ねています。</p> <p>イ 観光と魅力発信グループの活動</p> <p>(ア) 活動のコンセプト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住んでいる人に地区の愛着を深めてもらい、地区内外に情報(魅力)を発信する。 ・文化や風土、行事を継承していく。 <p>(イ) 主な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山辺パノラマライン沿いの藤棚、旧霞山荘周辺の整備 		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・左の写真:山辺パノラマライン沿いの藤棚周辺に金木犀を植樹</p> <p>・右の写真:旧霞山荘に植樹</p> </div>		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

・ガイドマップおよびウォーキングマップの増刷



・HPやSNSを利用した広報活動

ホームページはこちら↓

※[入山辺するじゃん新聞](#)で検索

<http://iriyamabe.com>

Twitterはこちら↓

<https://twitter.com/iriyamabe1?lang=ja>

Facebookはこちら↓

<https://www.facebook.com/konnayamabenisurujankai/>

ウ 食農振興グループの活動

(ア) みんなのSOBAで楽し味隊(蕎麦づくり)



7.31 そばの種まき



10.8 そばの刈り取り

(イ) 田んぼのわプロジェクト(もち米づくり)



5.14 田植え



6.11 田車等での草取り



10.1 昔ながら農機具で脱穀



3.21 もちつき

(ウ) 山辺小学校体験学習支援(もち米づくり)



9.13 稲刈り・ハゼ掛け



地域協力者から稲刈り手順の説明

エ 住みやすい地域づくりグループの活動

(ア) 景観整備

(ハナモモ周辺の草刈り等メンテナンス・県道沿い花畑の整備)



5.28 県道沿いにダリア植栽



7.9 山辺中学校生徒会と合同で
包石花畑へ花の植栽



花畑へ看板を立てる様子



花の植栽終了後、薪割体験の様子

(イ) 地区内の高齢者支援

- ・ 福祉ひろばへの送迎ボランティア活動
- ・ 入山辺運動広場でグラウンドウォーキング(月1回)の実施、介護予防の取り組み

オ D I Yグループの活動

(ア) ロケットストーブ製作体験会



2.4製作体験会実施の様子

(イ) 小型ピザ窯「じゃんドラ・サン」の製作



完成品のお披露目の様子

(ウ) 地区行事等での製作物の活用



11.10上土ふれあい新鮮市
ピザサービスデーにて
ピザ窯の活用



11.5入山辺地区文化祭でピザ窯を
活用し、来場者へピザを振舞った

カ 東山部不用食器回収活動

(ア) 東山部不用食器回収委員会主催の不用食器回収および「もったいない市」(まだ使える食器類を必要な方が持ち帰る)へ協力(11.27に実施)

(イ) 来場世帯数 211世帯

(ウ) 回収したフレコン数 7袋



食器回収の様子



もったいない市の様子

(3) 今後の展開

ア 成果

(ア) 毎月の学習会では、会員が地域を活性化するための活動について話し合いを継続し、意見やアイデアを気兼ねなく言い合える関係がつけられています。そこで思いを共有することで郷土への愛着心が育まれています。

(イ) グループの活動は会の理念である「豊かな自然を活かして、住んでみたい、訪れてみたい入山辺にしていく」ために、楽しく続けられる活動を少しずつ積み重ねてきています。また、グループ間の共同事業も生まれるなど、連携して取り組む関係が地域の結束を強めています。

イ 今後の取り組み

(ア) 既存グループでの話し合いに加えて、地域課題を参加者で出し合い、課題の解決に向けてアイデアを提案し、共有していくことが地区全体の発展のために求められます。月1回の定例学習会においてどのように地域課題を取り扱っていくのかについて、今後検討していきます。

(イ) 世代を超えて参加でき、交流を深めていくため、既存の取り組みをベースに活動の魅力をさらに伝えられるような工夫を図っていきます。